

新刊紹介

図書館に置いてある最新本の中から
おすすめのものをピックアップ。
バラエティーに富んだ
新刊を紹介します。

町立指江図書館 / 電話 0996-88-6500



幽霊の径

赤川 次郎 著

16歳の女子高校生が夕暮れどき、白いドレスの女性とすれ違ったことから物語ははじまります。次の展開が気になり、あっという間に読める一冊です。

町立鷹巣図書館 / 電話 0996-86-1111

がんのひみつ

中川 恵一 著



まず本のサイズに驚き！！です。国民の2人に1人が「がん」になる時代。「がんについての勉強」として読んでおくのもいいかも・・・。

長島文芸

明神俳句会

つるもどき牛の鼻輪を父が擦る
風鳥ぬす 蔓梅擬実を弾く
新米や中指で視る水加減
彼岸花一直線に畦はしる
旅先のロビー飾りてつるもどき
もてなしの新米いたたく旅の宿
台風の来つつ句会の一夜かな

二階堂妙子
淵脇 護
筑前 初市
山寄加代子
関 佳代美
大堂 早苗
迫口 君代

長島短歌会

車椅子乗る人押す人共に老ひ病院のロビー 我が前
を過ぐ 榎平 頼子
降り止みし雨の滴る萩の花連なり咲ける野路を我
が行く 米尾 和子

薄墨の雲も流れて中秋の月は遍く下界を照らす

中山タマエ

サルビアに白き蝶来て戯るるやわらかき陽の秋の
昼下がり 浜田美代子

川の辺に膨らみ厚き百日紅しらしら揺るる明日は
姪の忌 浜畑 松枝

霞たちお富士見えざるを惜しみつつ三保の松原な
ほ去り難し 林 ヒロ

与論にて拾ひし実より伸びにける蘇鉄は私の胸丈
を超ゆ 本田 幸子

我が家の庭先明るく咲きほこる糸瓜の黄は炎暑
に耐へて 町田キクエ

ようやくくに台風去りて安堵せり夜半の雨音聞きつ
つ眠る 松元 睦子

秋風のそよぎ始めし山頂に安らぎまさむ師と亡友
の歌碑 吉田 映子

老の手の荒れるもいとほし夜の更けにマニキュア
塗りて和みつつある 岩下 ち江

窓開き匂ふ海の気を深呼吸桜島向く朝の病舎に
岩下 房代

一般の方の作品

俳句

花蕎麥を眺めそば食む夫婦旅 川添 行秋
歩行いけば萩野の丘や海あおし 笹元 政美

短歌

十月は仕事一緒で追いつかぬなさねばならぬ我が
事なりや 町田 末則

納ぜんの蔓に見事な虹色の花房しだれ我眺めおり
中仮屋辰子